



国際的に活躍する専修人を紹介する「Globali 専修 (グローバル「専」ション)。初回は、イギリスの語学学校で国際教育交流のサポートなどを行っている千田学史さんに登場いただく。

College of International Education Oxford
ファイナンシャル マネージャー

千田 学史さん(平日経営)

HISASHI CHIDA



対話を通し多様性を身につける

— 現在のお仕事の内容を教えてください。

現在私は、英国オックスフォードにあるCIE Oxfordという語学学校において日英の国際教育と交流サポート業務に加え、学校事務の財務業務を兼任しています。毎年行われている専修大学の夏期留学プログラムCIEオックスフォードや、今年3月に実施したオンライン留学も担当しました。CIE OxfordはUTS国際教育センター(東京)の英国における学校法人で、高等教育の一環として、英国文化、教育、歴史、政治経済といった教養教育と英語教育に力を入れています。

— 英語は昔から得意でしたか。

いいえ。学生の頃、米国短期留学に参加したのですが、英語上達が目的というより、海外の人々と触れ合いたいという思いからでした。大学卒業後、留学を取り扱う仕事に就きましたが、外国人相手の英語でのコミュニケーションに自信が持てず、そこから、真面目

に英語に向き合おうと、カナダへ長期留学を決めたのが30歳手前でした。

— 留学を経て2006年に英国に赴任された後はいかがでしたか。

本校の校長ご夫妻の自宅に2年間住み込みながら、お互いの国の文化や問題について、じっくりと話し合いました。そこで英語漬けになれたことで、会話に関しては自信がついたように思います。

— 英国で印象的な出来事を教えてください。

当時は、英国はEU加盟国で、多くの人々が移住していました。Eurovisionという50カ国以上が参加し数億人が視聴する歴史ある音楽の祭典があります。初めてそのライブを目の当たりにして、とても興奮しました。日本では味わったことがない多民族国家の象徴と表現の多様性を心の底から実感したのです。

— CIE Oxfordでは留学生にどのようなことを伝えていきますか。

英語を学ぶことは、ただ語学力を伸ばすことではなく、対話を通してその国の文化的背景や社会情勢などを知り、多様性を身につけることが大切だと伝えていきます。そのためには、価値観の違った人と触れあいながら別の視点を学び、日本の文化や問題点などについても、きちんと相手へ伝えること。本校の教養授業では、学んだ知識を日本と比較させ、自分なりの考えをまとめ発表してもらいます。研修参加者から、最初は戸惑いを感じながらも、「英語で伝えることが楽しいと思えるようになった」と感想をいただき、とてもうれしく思っています。

専大生へのメッセージ

The real voyage of discovery consists not in seeking new landscapes, but in having new eyes.

真の発見の旅とは、新しい景色を探すことではない。新しい目で見ることなのだ。

フランスの作家マルセル・ブルーストの名言の一つです。

コロナ禍で旅に出ることは難しいけれど、今までになかった知識やモノの見方を得ることはできるはず。学生のうちに海外に触れ、日本の価値観とは違った角度で見る目を養ってほしいと思います。

ボランティアサークル「ナヌム」の説明



国際交流センター主催の留学プログラムや学内での国際交流、留学支援講座などについて情報提供を目的とした「海外留学・国際交流フェア」が4月24日、オンラインで開催された。今春実施された英国・オックスフォードでのオンライン留学参加者によるパネルディスカッションでは、杉山裕紀さん(法2)が「失敗を恐れずチャレンジする力がついた。語学面ではスピーキングが鍛えられた」と振り返った。本学では今夏、CIEオックスフォードと豪州・ウーロンゴン大学でのオンライン留学を予定しており、そのプログラム説明も行われた。このほか、卒業生による留学体験報告や、韓国語ボランティアサークル「ナヌム」による交流イベントも実施された。

海外留学・国際交流フェア

アルメニア・デンマーク

体験記

2カ国の学生とオンラインで交流

コロナ禍の影響に関心

鹿内 匠さん(経済4)

アルメニアは、世界最古のキリスト教国であり、旧約聖書の「ノアの箱舟」が漂着したとされる「アララト山」やキリスト教最古の教会「エチミアジン大聖堂」が有名です。2月25日に異文化交流会を開いたアルメニアは、2020年秋にアルメニアでも、日本と同様にオンラインでの授業が展開されており、感染防止策として、高齢者と若者で買い物のための外出時間を分け、外出

佐竹弘靖教養ゼミ「文明を歩く」は、ユーラシアやアメリカ大陸の国々の文化や風土、人々の生活などについて調査・研究する。最終課題として、さまざまな国・地域で1〜2週間のフィールドワークを実施し、現地の大学生と文化交流を行ってきたが、2020年度は中止。代わりに2、3月にアルメニア、デンマークとオンライン交流を行った。参加した学生に体験記を寄せてもらった。

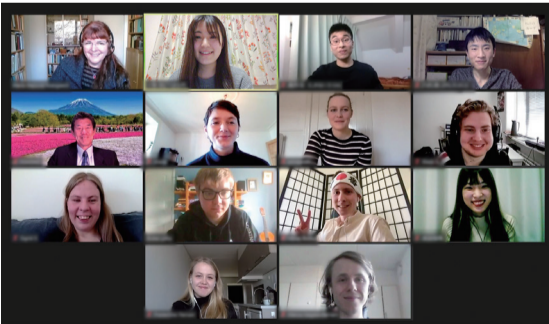
佐竹教養ゼミ「文明を歩く」

の際には許可書を持参する義務を設ける策がとられていました。最近、「もし、コロナの影響がなければ」と考えることがあります。ですが、2020年秋にアルメニアとアゼルバイジャンで勃発したナゴルノ・カラバフ紛争などを考えれば、アルメニアの学生と交流ができたのはオンラインのおかげと言えます。コロナが収束した際には、アルメニアを訪りたいと思っています。

教育制度の違いに驚き

小島 凪さん(文3)

3月22日に行った、デンマークのコペンハーゲン大学日本学科の学生とオンライン交流会で、最近の大学生生活についてなどを披露し、コペンハーゲンの景観やデンマークの宗教学、文化などを紹介してもらいました。



今回の交流会のキーワードとして、「教育」が挙げられます。デンマークでは、大学進学の前「ギャップイヤー」と呼ばれる1年間の空白期間を設ける制度があり、個人の見聞を広げるために用いられます。交流会の後、学生だけで対話を続けたことも貴重な経験です。日本の観地やコロナ禍での大学生活の違い、デンマークの美味しい料理の話など、時間の許す限りさまざまな話をするのができました。デンマークの皆さんは本当に日本文化を愛してくれており、私たちは日本が誇らしくなると同時に、デンマークを一度は訪れたいと強く感じました。



- 92 -

中原 孝信
商学部准教授

言葉は音からできている!

私は、在外研究のためにアメリカのメリーランド大学で2018年度の1年間を過ごしました。アメリカで長期間生活することは初めてで、言葉の壁や文化の違いを肌で感じる素晴らしい経験ができました。最初の壁は複数人のネイティブとの会話でした。日本にいるときから、ネイティブ同士の会話は話の展開や会話のペースが速いということを聞いていましたが、速さだけではなく、英語には音声変化がたくさんあり、それを知らないとフレーズが聞き取れないことに気づきました。そのきっかけは次のフレーズでした。「ツィー ニーダワーヘル?」んん? どういう意味。後でホストに聞いたら「Does he need our help?」でした。「ダズ ヒー ニード アワー ヘルプ」って発音しないの!?! 実は文章とそれを読むときの音が違うのです。それをきっかけに調べたところ英語には「連結」「脱落」「同化」など、フランス語と同じように音声変化があることを知りました。実はこのルールを知らないと聞き取れないフレーズがたくさんあるのです。英語でテキストを見ながら音声を聞いている場合に、自分が読む音と聞こえてくる音が大きく異なる場合は、音声変化が原因かもしれません。

日本語の場合は主語がよく省略されます。とくに話し言葉では主語を省略して楽をすることがよくありますが、英語の場合は音声変化によって楽をしているのです。音声変化によって、書き言葉と発音が異なるのです。これは、まさに言葉が文字からではなく、音からできたことを表しているのでしょう。

(マーケティング情報・モデルとデータ分析)

短縮版。全文はCALL教室ホームページで。